

## 平成30年度 第5回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日時 平成30年12月3日（月）

午後2時15分～4時

場所 蒲郡市役所新館6階601会議室

### 1 開会

事務局より配布資料の確認、欠席及び途中退席者の報告

### 2 議題

#### (1) 平成30年度第4回議事要旨の確認について

○事務局より第4回まちづくり会議議事要旨を説明

→事前送付の際に出た意見をもとに修正していることも報告

委員に意見を伺い、特に意見がなく承認された。

#### (2) 平成30年度採択団体事業実施状況について

○事務局より、実施状況について説明

・ユニバーサルマインド講座（第3回）

団体名：夢追いかけてまちづくり同好会

事業名：ユニバーサルマインド講座 「障がい当事者が語る『不便だけど不幸じゃない』」

日時・場所：11月25日（日）

午後1時30分～ 蒲郡勤労福祉会館

講師：辻直哉氏（車椅子使用者）特定非営利活動法人チャレンジド理事長ほか

#### (3) 助成金事業制度の要綱変更等について

○事務局より、交付要綱の変更点について説明

・助成率を設ける。2回目の交付は3/4、3回目の交付は1/2。

・採択される条件は、はじめの一步部門は全体の6割、活動ステップアップ部門は、基本項目の6割を審査員の3/4以上が採点し、かつ全体の6割の獲得が必須となる。

・募集要項に具体的な取り組みイメージを掲載する。→PRチラシを別に作成する。

・前回の会議で話し合われた、「はじめの一步部門の対象団体は、助成金の交付を受けて3年未満の団体とする。継承団体は通算して3年を限度。」と「活動ステップアップ部門の対象団体は、3年以上の活動実績を有する団体とする。」という点については、もう少し議論をする余地があると考えられるため、今回は改正の対象から外す。

→継続審議していくことで、承認された。

ただし、どのように審議されているのかを、外部からも分かるようにしておくべき。

（ホームページに掲載する等）

- ・活動ステップアップ部門が3回まで助成可能なため、基本的には3年間助成を継続して  
くのか。  
→3回目までなら助成することができる。ただし、2回目以降は助成率が加わる。  
→ハード整備、人材育成など事業によっては複数年にまたがる場合もある。過去には  
3年計画もあったが、基本的には1年ずつ申請を出るほうがよい。
- ・交付制度に関しては、随時見直していく必要がある。この会議で、継続して審議する。

○事務局より、募集要綱について説明

- ・応募期限を、活動ステップアップ部門が2019年2月1日（金）。はじめの一步部門  
が2019年2月2日（土）とする。
- ・今までは、期限の表記が元号（平成）によるものだったが、変更されることが決まっ  
ているため西暦表記とする。
- ・はじめの一步部門、活動ステップアップ部門の審査を2019年3月3日（日）に行う。  
会場は、蒲郡信用金庫本店コミュニティホール。

○PRチラシをまちづくりセンター主導により、今年度初めて作成。ご意見を伺いたい。

- ・画像が入りキレイにレイアウトされている。
- ・いろいろなまちづくり講座に参加するが、最初の一步が踏み出せない。このチラシで、  
それを後押しできたらよい。
- ・ひらめきから実行まで、フローチャートのようにしたら分かりやすいのではないか。
- ・Q&A方式でもよい。思いを共有できる人を見つけることが難しい。そのためにはこん  
なところへ行ってみよう！というヒントがほしい。
- ・「あなたから始めるまちづくり！」は、取り組んでいるものからすると、まちづくりを  
しているという感覚は薄い。未経験の方にも、しっくりこないと思う。  
→「思った事をやってみよう」「とりあえず始めてみよう」など出来るだけ簡単で、  
伝わりやすい言葉がよい。  
→まず「あなた」とは、誰からみての「あなた」なのか。読んでいる人からすると私。
- ・現在既に活動している方で、事業に行き詰まり新しい方法を模索している時にも、希望  
が感じられるようだったら良い。  
→今やっている活動で悩みがあり、どう次の一步にいかうか、地域の課題があり、どう  
しようか、自分の夢を実現したいなど最初の入り口を複数示してあげれば、小さなこ  
とからでもチャレンジできるイメージが沸きやすい。
- ・QRコードの掲載をしてはどうか。読み取った先には、過去の助成金の実績等を載せる。  
誰でもチャレンジできるというイメージを強く出してもよい。
- ・最終的には、みんなの笑顔を作りたいというところに繋がったらよい。思い、ひらめき  
を共有できる人を見つけたいと思っている。この紙面から次に繋がってくればよい。
- ・どの活動が助成金の対象となるのか、採択されるラインが分からない。  
→個人でやるのではなく、地域の盛り上がりのため、居場所づくりとしてなら可能。  
→チラシには、今まで助成された活動が掲載されているが、どういう活動なら助成が可  
能なのかは示されていない。活動のヒントが載っていれば分かりやすいと思う。

- ヒントの掲載はまちづくりセンターとも検討したが、申請者がヒントで挙げられた活動であれば、採択されると思ってしまう。誘導してしまうかもしれない。
- 具体的に掲載するのではなく、広い意味のイメージを載せれば良い。そこから申請者が考えて申請をすべき。
- ・集える空間づくり、みんなの笑顔が集まる地域づくりというイメージが市民にとって助成金を使ってする事業であると思う。
  - ・チラシの訴求ポイントを「少しでも興味がある方は、まちづくりセンターへ相談に来てください！」に置く。とにかく気になる方は来て相談してほしいと訴える。
  - ・事業ごとの助成額を入れるとインパクトと現実味がある。  
→一度考えましたが、やめておいた。
  - ・全く関わった事がない人が、チャレンジしたいとなった時の受け皿として、紹介できればよい。
  - ・「このまちの、今と未来を何とかしたい！」という表現は、初めて見た人からすると抽象的過ぎて実感がわからない。例えば、笑顔にしたいからお手伝いしますという言葉のほうが、分かりやすい。
  - ・活動内容よりもまちづくりのメリットを入れるほうが、やろうかなとなりやすい。楽しいからやる、面白いからやる。それらを伝えるとやろうという気になる。
  - ・今まで助成金交付団体がどういうきっかけでこの取り組みを始めたのか、を伝えるとよい。「〇〇が気になって、××を始めました」が分かるといい。
  - ・チラシは、最初に手にとって見てもらわなければならない。表紙には、情報を載せすぎず余白を使うのも手法の一つ。また、内容が紙面内で重複するのはもったいない。
  - ・まちづくりをする人たちにとっては、「ホームページで確認」と誘導するよりは、紙面で見ってもらう方がよいのではないか。
  - ・まちづくりセンターへの地図を掲載すべき。
  - ・「私は、これで助成金をもらい、楽しく過ごせています」というのはアピールはどうか。
  - ・表紙に最低限必要なのは、締め切りの日付。それを元に、中を開いてくれるかもしれない。
  - ・締め切りや審査の日を、時系列順に並べてもよい。
  - ・活動ステップアップ部門は、はじめの一步部門に応募してそこから発展した方のみなのか。  
→最初は、はじめの一步部門でスタートして活動ステップアップ部門に移行していくのかと思っていた。しかし、長らく活動をしている団体にとっては、はじめの一步ではないため、まず活動ステップアップ部門にエントリーしていく。  
→字面からすると、勘違いしてしまうように感じるので少し説明を入れたらよい。
  - ・「やってみよう！」というイラストのイメージが難しい。どんなもの？  
→委員の中でも、イメージがあれば教えてください。
  - ・チラシ全体に関しても、シェアしながら気づいた点をご指摘いただく。

#### (4) モデル事業について

##### ア) 人材育成連続講座について

###### ・個人向け育成連続講座について

講座名：がまごおりまちづくりセミナー 第1回  
日時：2018年11月24日（土） 午後1時30分～午後4時  
テーマ：私からはじまるまち育て～こんな私になりたい！こんなまちになったらいいな  
参加者：18名  
内容：話題提供①はじめの一步をふんだ全国の実践紹介②真野のまちづくり  
ワークショップ「話題提供で印象に残ったことを話し合おう」  
「グループ名を決めよう」

- ・名畑さんお別の講座に参加したが、いろいろな事例を紹介してくれた。ただ、その活動をどう始めるのかが難しい。
- ・名古屋の錦で、ごみ拾いを「楽しく」行っているそう。どのような工夫をしているか知りたい。  
→ごみ拾いもかっこよく見せることが必要。
- ・パトロールもジョギングしながら、犬の散歩しながらなど何かと一緒にやることで工夫。

##### イ) 公共空間の利活用について

第1回実行委員会報告  
日時：2018年11月3日（土） 午後3時～午後4時30分

- ・店を出したりするのであれば分かるが、何も無いところにイスを出して変化があるのか。
- ・まず、実際にやっている人の話を聞いて、自分の知識として知りたい。
- ・最初の一步は、何か楽しいことがやればよいという考えである。
- ・若い人のパワーを少し方向転換すると、上手く実施ができるはず。
- ・軌道に乗り始めたら、市内の高校生にも声かけをしていく。
- ・水族館が活気あるので、そこにつなげていければよいのではないか。
- ・サーラ、エイデンなど道沿いの企業も協力的である。

### 3 その他

- ・役員改選について（平成31年度は改選の年度です）
- ・賀詞交歓会について

2019年1月6日（日） 蒲郡市民会館大会議室で実施。

ゲストスピーカーを呼んで講演会というよりは、参加者同士が話をする会にしたい  
若者がまちづくりに参加できような交流をする会にしたい →後日案内をする

- ・次回開催について

事務局より次回日程を提案

2月18日（月） 午後2時15分～ 302会議室 で決定

まちづくり助成金審査会における審査員 → 選定を委員長に一任